

読売新聞 きょう（7月19日）のイチ押し

1面・2面・社会面 兵庫県知事に斎藤氏

20年ぶりに新人同士の争いとなった兵庫県知事選は、18日投開票され、自民党と日本維新の会が推薦する元大阪府財政課長の斎藤元彦氏（43）が初当選しました。自民党は候補擁立を巡って分裂し、一部県議が前副知事の金沢和夫氏（65）を支援しましたが、及びませんでした。

- ★ 知事選では長らく、共産党以外の「オール与党」体制で現職や後継候補の副知事を支援する構図が続いていました。有権者はこうした「禅譲」のあり方をよしとせず、「刷新」を掲げる斎藤氏を選んだようです。
- ★ 自民は今回、県議の分裂も辞さずに維新との共闘を選び、推薦候補の勝利を得ましたが、しこりを残しました。維新は勢力拡大の足場を築くことに成功しました。秋までに行われる次期衆院選では、両党は7小選挙区で激突する見通しです。今後の勢力図がどうなるか注目されます。

社会面 ただ、ただ、会いたい 京アニ放火殺人2年

36人が亡くなった京都アニメーション放火殺人事件から、18日で2年を迎えました。現場となった京都市伏見区の第1スタジオ跡地で追悼式が開かれ、遺族や社員ら約70人が参列し、祈りをささげました。

アニメの色遣いを決める「色彩設計」を担当した石田奈央美さん（当時49歳）の母親（80）は追悼式に参列し、「今日はここに来たよ」と語りかけながら白菊を手向けました。遺族の弔辞を聞いて涙があふれたといい、「時間がたてばたつほど、悲しみが増してくる」と話しました。

京アニの八田英明社長は記者会見で、「2年が過ぎようが、思いはいささかも変わらない。日々、『みんながいてくれたらな』との思いで努力している」と心境を語りました。

他紙と比べて

総務省が、テレビ局と大手携帯会社が同じ周波数帯の電波を時間帯で使い分ける新制度の運用を、年度内にスタートする方針を固めました。高速・大容量通信の「5G」の普及で、データ通信量が急増していて、限りある周波数帯を有効に活用する必要があると判断しました。本紙の特ダネで、1面トップで報じています。